

年頭にあたって

岩見沢市長 渡辺孝一

新年あけましておめでとございます。

市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日ごろは市政に対し、ご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年10月の市長選挙により、3期目となる市政の舵取りを担わせていただくことになりました。

少子高齢・人口減少時代の到来、景気低迷による市税収入の減少、また、地方分権の一層の進展などにより、地方自治体を取り巻く環境が一段と厳しく変化し、難しい舵取りの時期となっておりますが、その責任の重大さに身を引き締めながら、市政の運営に当たってまいりる所存であります。

私は、安定した行財政基盤の確立を進めながら、「市民本位のまちづくり」と「自主自立のまちづくり」を市政執行の基本姿勢として、「市民が主役の行政」の実現を目指していますが、そのためには住民自治の確立が必要だと考えています。住民自治の基本精神というのは、市民の皆様と行政の役割の分担です。地方分権時代の中で、自治体が地域の状況に応じた個性豊かなまちづくりを進めるためにも、市政に対する関心を深めてもらい、誰もが市政に参画できるような仕組みづくりに努力していきたいと思っております。

さて、昨年を振り返ってみますと、まず、地域経済の活性化してきましたは、やはりポルタビルの再生が大きな課題ですが、昨年末に市の方針をもとに市民説明会を開催し、多くのご意見をいただきました。今後、各関係団体からの意見も踏まえ、ポルタビルをどのように再生すべきか早急に決定したいと考えています。

また、住環境の向上のために、住宅改修費用の一部を助成した住宅リフォーム助成事業では、約14億5千万円の工事が発注され、地域経済の活性化に大きな波及効果がありました。

基幹産業の農業では、新規就農サポートセンターを設置し、新規就農者の支援をしております。地元農産物の販路拡大の面では、中国瀋陽市への米輸出に向けた交流の継続や、東京板橋



区の大山商店街にあるアンテナショップでの販売、道内では、釧路市・紋別市との産地間交流を進めるなど、農業の振興に力を入れています。

福祉・医療・教育の取り組みでは、国に先駆けて導入した父子手当制度や、児童館の夏休みの開館時間の拡大など子育て支援の充実、地域医療の中核を担う市立総合病院における地域医療の維持確保や診療連携の充実を図ってまいりました。

また、37億円を計上している教育費は、一般会計の84%を占め、岩見沢小学校の校舎・屋内体育館や東小学校の屋内体育館の改築に係る設計を行うなど、安全・安心な学校づくりに努めてまいりました。

市民の皆様にご迷惑とご心配をおかけしたごみの処理につきましては、「ごみのよりよい始末を進める井戸端会議」をはじめとする皆様のご意見や、「きれいなまちづくり検討会議」の結果を踏まえて、岩見沢市にふさわしい新しいごみ処理方法を策定していきたいと考えています。

現在、岩見沢市におきましては、非常に厳しい社会状況下に置かれています。こうした時期こそ、まちの主役である市民の皆様と行政が共に手を携え、知恵と工夫を凝らしながら、岩見沢市の輝かしい未来に向かって、前向きな姿勢で市政運営に取り組んでいくことが大切であると考えております。

今後も、一層簡素で効率的な行政運営を行い、「岩見沢市に住んでよかった」と思えるまちづくりを進めるとともに、誰もが幸せを感じることができる、誰もが安全・安心で生き生きとした生活ができる、人にやさしい温かいまちづくりの実現に向け、全力で走ってまいります。どうかこれからも温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が市民の皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますよう、そして、皆様のご多幸とご健勝を祈念し、年頭のあいさついたします。

平成23年 元旦



市長室開放で高校生と語る